

奈良マニフェスト※

新しい風を生活に送り 込む3大〇宣言

仲川げん

仲川げん プロフィール

1976年(昭和51年)奈良県生まれ。北大和(現奈良北)高校を経て、1998年立命館大学経済学部卒業。帝国石油(現国際石油開発帝石)株式会社を経て、2002年より、NPO法人奈良NPOセンターで勤務。県内NPOの活動支援を行う一方、子どもの体験プログラムや学びを通じた地域活性化事業に取り組む。現場で活動する中、社会を抜本的によくするには、政治や行政を変革する必要があると強く感じ、政治の道を志すことを決意。奈良県少子化対策推進委員会委員ほか。共著「赤ずきんと新しい狼の世界～子どもの安全・保護と自立のはざままで～」(2008年・洋泉社)



ゼロ宣言1

行政のあり方を市民目線で見直し、市民がド真ん中の奈良市政をつくります。350億円もの事業費が見込まれるゴミ処理場移転事業など、総額650億円にもものぼる大型箱モノ事業をゼロベースですぐに見直します。



ゼロ宣言2

日々のくらしの安心・安全を守ります。駅前保育所5カ所を2年以内に設置し、待機児童ゼロを実現します。医師・看護師不足を解消するとともに病床をフル稼働し、4年以内にたらい回しゼロを実現します。



ゼロ宣言3

奈良の基幹産業である観光を、人と自然に優しい形に変えます。世界遺産ゾーンへの車の流入を抑制する方法を早急に確立します。

※マニフェストは、私と市民の皆さんとの約束です。私は現場感覚を第一に、市民の皆さんの声を聞きながら、生活(くらし)第一の奈良づくりに挑戦します。約束したことは、必ず実現し、毎年、実行状況を検証して、市民の皆さんにお知らせします。私は、市民の皆さんの声に耳を傾け、しがらみのない若い力で、新しい風を奈良に送り込みます。

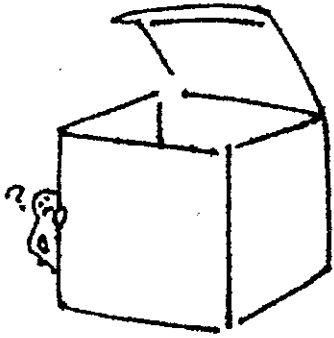


ゼロ宣言1

しがらみ・利権政治と決別し、徹底した行財政改革を行います。行政のムダを徹底的に洗い出し、将来への負担を減らします。本来の行政のあるべき姿を問い直し、市民のための行政を取り戻します。

総額 650 億円の 大型箱モノ事業を見直します。

現在進行中のゴミ処理場移転事業などの大型箱モノ事業が、本当に市民生活に必要なものかを検証し、規模、内容、コストなどの面からすぐに見直します。

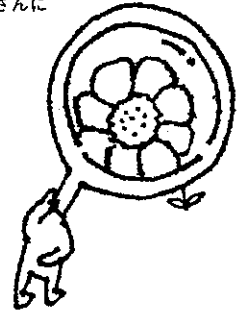


不要な事業を廃止・縮小し、 37億円の政策予算を生み出します。

前例踏襲で続けてきたすべての事業を対象に、市民の皆さんと一緒に公開事業仕分けを行います。ゼロベースですべての事業の要・不要、優先順位やコストを見直すことにより、2009年度一般会計予算額 1,236 億円の 3%にあたる37億円の政策予算を生み出します。**2010年度より実施**

行政を、「見える化」します。

議員の口利きや市職員への働きかけ行為については、文書で記録し、徹底した情報公開を行います。また、予算の編成過程を明らかにし、どのような優先順位に基づいて事業が実施されるのかを市民の皆さんに積極的に説明します。**2009年度より実施**



天下り根絶。外郭団体は整理統合します。

機能が重複する施設や時代のニーズに合わない外郭団体は見直し、市職員による天下りは禁止します。**2010年度より実施**

市長の退職金を廃止します。

市長退職金（1期 3,450万円）をはじめ、副市長など特別職の退職金を廃止します。また市長の多選禁止条例を制定、慣れ合いや癒着を防ぎます。**1期目より実施**

公用車を大幅に削減します。

2009年度中に、現在724台ある公用車の要・不要を見極め、削減します。



職員の人数、人件費を見直します。

職員を適材適所に配置するとともに、早期退職制度の導入などにより職員数を最適化します。各種手当についても、市民感覚で納得のいくものに限定します。

2010年度より実施

「しがらみ公共工事」を禁止します。

市長や市議会議員、その三親等以内の親族が経営する企業への公共工事等の発注を禁止する政治倫理条例を制定します。

職員養成塾を開きます。

地方分権や道州制の導入を念頭に置きながら、これからの自治体職員に求められる能力を養成します。**2010年度より実施、予算 500万円**



外部の人材を活用します。

高い専門性をもった外部人材を積極的に登用することで、ご都合主義に風穴を開け、職員の専門性を高めます。人事評価にも外部の視点を取り入れます。**2010年度より実施**

各部長と、 マニフェストを結びます。

市長が市民と約束したマニフェストを部局ごとに推進するため、市長・部長間でマニフェストを結びます。目標の達成度や評価をしっかりと行います。**2010年度より実施**



ゼロ宣言2

安心して生活できる街をつくります。子育て、教育、医療の分野に優先的に予算をつけ、生活(くらし)を守る奈良市政を実現します。



助産師・保健師を、身近に置きます。

助産師・保健師が、奈良市男女共同参画センター・西部公民館に常駐し、赤ちゃんの成長や母乳育児などについての相談が気軽にできる体制を整えます。各公民館も月1回訪問し、きめ細かい産後ケアを実施し、安心して子育てできる街をつくります。

2010年度より実施 予算 1,500万円

2年以内に、保育所待機児童をゼロにします。

市内の主要駅に駅前保育所を5ヵ所設置します。既存の市立保育園、幼稚園についても、病児保育や、午前7時から夜7時までの延長保育など、多機化する保育ニーズへのサービスの拡充を図ります。2011年度より実施 予算 6億円



医療費補助の対象を、中学生まで広げます。

乳幼児に加え、医療費補助(通院・入院)の対象を、中学生(15歳)まで広げます。

2011年度より実施 予算 4億円

4年以内に医師と看護師を50名増やします。

病院のたらい回しが起きない地域医療体制を構築します。医師、看護師の労働環境を向上し、独自の研修プログラムを実施します。働きやすさ日本一の公立病院をめざします。また、奈良市出身の医学生への奨学金制度等により、奈良の医療を守る人材に投資します。

2013年度より実施 予算 3億円



ずっとこの街で。安心介護の街にします。

小規模多機能型居宅介護施設を中心に、医療・介護・福祉の連携により高齢者が最期まで尊厳を持って生きられる街をめざします。小規模多機能施設の開所に最大300万円の支援を行います。2010年度より実施 予算 3,000万円

中学校でも、地産給食を実施します。

健康で安心・安全な食を提供するため、小学校に加え中学校でも給食を実施します。食材は、地元産農作物を30%以上使用することをめざします。

4年以内に実施できるように、すぐに検討を開始



地域で決める「学校予算」、はじめます。

図書や楽器の購入やビオトープの整備、ゲスト講師や外国語指導員の招聘等、学校の希望や地域事情に合わせて使い道が決める予算を設けます。

2010年度より実施 予算 1億円

小学校のすべての学年を、30人学級にします。

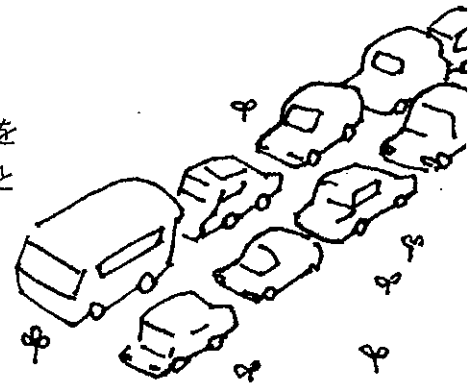
4年以内に実現 予算 4億円





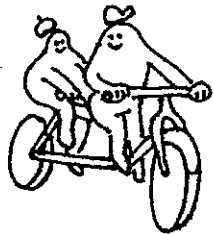
ゼロ宣言3

1000年後も安心して住み続けることができる都市をめざします。観光政策をハードからソフト中心へと転換し、環境に配慮したまちづくりを行います。



市内公共交通機関の1割を、エコ化します。

市内運行バスのCNG(圧縮天然ガス)化や、充填ステーション設置に対する補助、タクシーのエコカー化に対する助成を行い、4年以内に1割をエコ化します。**2010年度より実施 予算 3000万円**



放置自転車を無くします。

まず、駅前の駐輪場を整備します。そして、環境にやさしい自転車利用を促進します。

本年以内の実現

土日・春秋の観光渋滞を解消するために、世界遺産ゾーンへの乗用車流入を規制する方法を早急に確立します。

歴史的な景観を守るために、奈良町の無電線化に取り組みます。

4年以内の実現に向け、2009年度より検討を開始します

家庭用ソーラーパネル設置を補助します。

国の補助7万円/KWに加え、市独自の補助5万円/KWを実施します。クリーンエネルギーでCo2排出量を低減します。**期限 2010年度より実施 予算 500万円**

街の商い繁盛プロジェクト、はじめます。

郊外の大形店に流れる消費を街中で引き止めるため、歴史的景観・街並みを保存し、歩いて楽しめる観光地としての奈良をPRします。

2010年度より実施 予算 500万円

ゴミのない商店街にします。

閉店後に放置された商店街のゴミを観光客の目に触れない場所に一括集積。世界遺産都市として恥ずかしくないゴミ対策をすぐに実行します。



「奈良版1%条例」を制定します。

個人住民税の1%を、自分の選んだ団体やテーマへ寄附できる条例を制定し、税の使い道に自分の意思が反映するしくみをつくります。また、NPO・ボランティアグループの持続的な活動展開を支援します。**期限 2010年度より実施 予算 2500万円**

空き家をなくし、次世代につなぎます。

概ね築30年以上経ち、家族構成の変化で持て余した家屋を若年ファミリー世帯につなぐしくみを確立し、新規世帯の転入を促進します。また町屋バンク(仮称)を設立し、町屋に対するニーズにも対応します。**2012年度より実施**



コミュニティビジネスを支援します。

奈良の地域特性を活かしたコミュニティビジネスを支援、新たな雇用を創出します。また地域課題の解決とビジネスを融合させた社会起業家も支援します。**2010年度より実施 予算 500万円**

世界遺産大学を開講します。

奈良に暮らす人が世界に誇る奈良の魅力を再発見する学びの場を創ります。また、1300年に渡り、世界遺産を守り続けてきた知恵を世界に発信していきます。**2010年度より実施 予算 1000万円**

市民による自治を支援します。

NPO・ボランティアや、地元大学、商店街等、地域の資源を連携させて、自分たちで街を良くしよう、元気にしようという動きを活性化します。行政がすべて担う時代から、市民による自治の支援にシフトします。



「観光産業創業支援ファンド」を設立します。

新たに観光関連産業を立ち上げようとする事業者に対し、ビジネスプランコンペを実施。入賞者には専門家による経営指導等、積極的なバックアップを行います。**2010年度より実施 予算 500万円**

「奈良市第4次総合計画」(2011年~20年)を、市民参加で作ります。

皆さんのアイデア、ご意見、ご感想など、どしどしお寄せ下さい。

仲川げん後援会 〒630-8224 奈良市角振町13 TEL. 0742-24-7818 / FAX. 0742-24-7819

☑ info@nakagawagen.net ホームページ <http://www.nakagawagen.net/>



「まちに必要なことは全部やったれ！」。 市民とともに、市民が願うまちをつくります。

仲川 げん さん ('98経済)

奈良市長

全国で2番目に若い市長

2009年7月、全国で2番目の若さで古都・奈良市の市長に就任した仲川さんは、温かみのある笑顔が人気の一つだ。予ねてから市に政策を提言するなど「奈良市のために尽くしたい」という思いを持ち続けていた。学生時代は「国際的な課題」に関心を持っていたことから、世界の高校生が意見交換する会議の場の立ち上げを行い、さらに卒業後はNPO法人(特定非営利活動法人)の事務局長などで活躍した。こうした新たな挑戦を好む“習性”は、子どもの頃から生まれ、自身の大きな武器となっている。

仲川 小さい頃から好奇心旺盛で、高校時代は文化祭に夢中でした。2年生時から「3年生になったらこんな文化祭をやろう」というビジョンを持っていたほどです。自分たちの代では実行委員長になり、企画から運営まで真剣に取り組みました。半面、勉強に熱心だったとはとても言い難いですね(笑)。

その後は大学受験が待っていましたが、受験勉強をスタートしたのは文化祭が終わってからでした。何しろ、頭の中は文化祭一色でしたので…。当初は比較的得意な「国語」と「英語」だけでの受験を考えていましたが、志望していた大学、学科では社会系の科目も必要ということに気づきました。苦手な「社会」をどう攻略するか、という難問にぶち当たりましたが、悩んだ挙句、1カ月間集中して「現代社会」を徹底学習する方法を選択しました。

「現社」を選んだ理由は、残り時間を考えて「いかに楽をする

か」という“魂胆”からでした。そのため、教科書が最も薄い現社を選択したのですが、この集中学習は意外にも大きな収穫だったのです。現社は世の中の動きとリンクしていたため、勉強するうちに経済や政治に興味を持ち、経済学部での学びに対する関心が高くなりました。

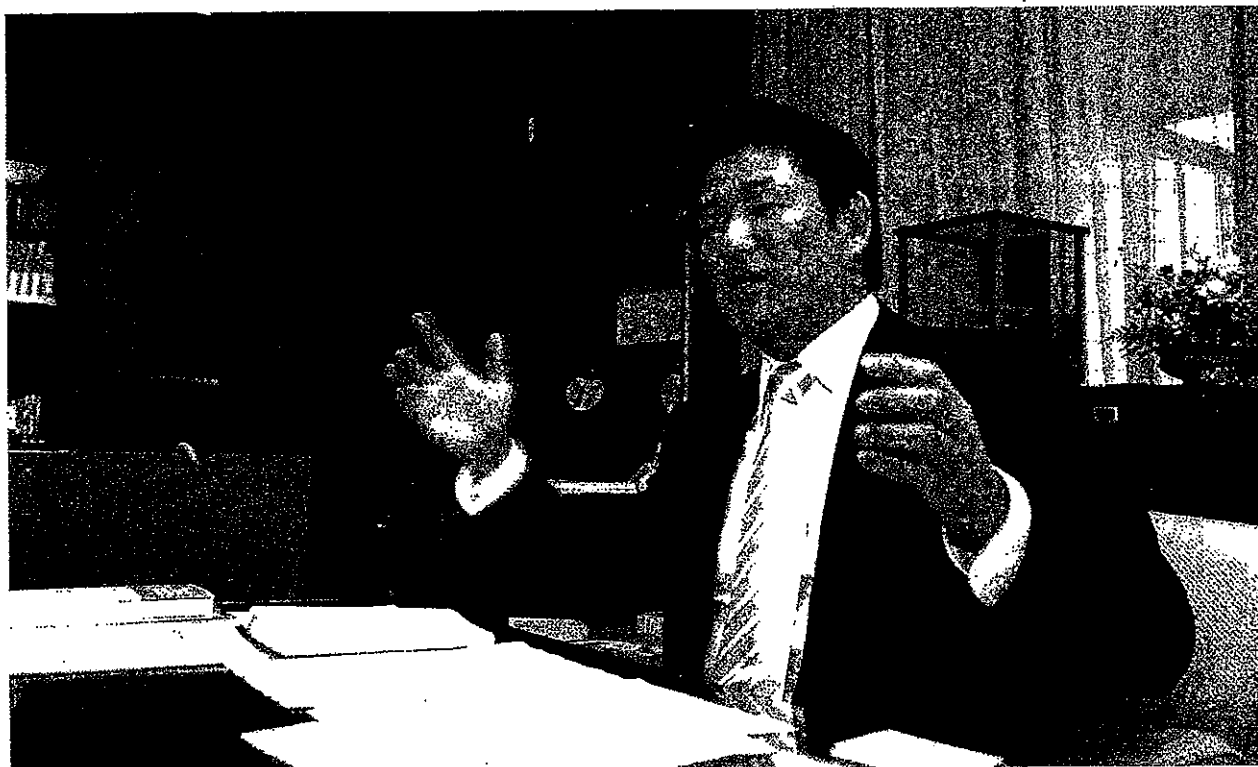
当時は首都圏の大学への進学も考えていましたが、親から「これから関西がおもしろくなる」という助言を受けたことも影響し、立命館を選びました。関西の大学の中で、真っ先に合格したのが立命館。その時点で入学を決めました。これも縁だと思っています。

資源や環境の学びから

ユニークな高校時代を過ごした仲川さんが晴れて立命館の門をくぐった。4年間通じて、持ち前の「順応性」と「行動力」を発揮。中でも環境問題をはじめとする、国際社会の課題について高校生が議論する「ユース国連会議」を国内で初めて立ち上げるなど、活発な学生生活を送っていた。

仲川 学生時代は色々なことに取り組みました。いわゆる優等生ではありませんが、学ぶことは好きでしたし、興味ある授業は未登録でも受講していましたね。

学生時代、最も学びが多かったのはゼミナールです。所属していたのは、経済学部と国際関係学部の合同開講で、資源環境やエネルギー政策をテーマにしたゼミです。当時は「気候変動



枠組条約第3回締約国会議」(COP3、京都会議)が開催されるなど、各地で「資源」や「環境」について盛り上がりをみせていました。

元々、「ユース国連会議」の代表を務め、この会議を広める活動を行っていましたので環境や資源、開発援助などは関心の高い分野でした。加えて、学部を越えた新しいつながりも構築したいと考えていた私にとって、打ってつけのゼミでした。卒業論文のテーマは「東アジアの経済発展とエネルギー安全保障」です。ゼミでの研究からエネルギー分野への関心がさらに高くなり、卒業後は帝国石油株式会社に就職しました。ゼミは進路選びに大きく影響しましたね。

これまでの自分を振り返ると、私は与えられた状況や環境から新しいものを見つけていくタイプで、良く言えば順応性がある人間と捉えています。子どもの頃から、そういった傾向が強いですね。おそらく、自分自身に圧倒的な強みや能力がないことをある程度自覚した上で、どうやりくりするのかという「生き残り策」を常に考えていたからだと思います。例えるなら、足の短い人が長い人に勝つためには、足の回転を上げるしかないのと同じです。私は回転数で勝負しています。

奈良のNPOの支援体制を構築

帝国石油に入社後、経理部に配属。数字は苦手だったが、ここでも順応性を活かし、日が経つにつれ「数字好き」へと変わっていった。3年間勤めた後、退職して地元奈良のNPOで活動。「自分に求められること」について、考え抜いた末に選んだ道だった。民間企業で培った経験を活かし、新たに奈良のNPOの支援体制を構築する。

仲川 所属していたNPOは、奈良県内の小中学校においても活動していましたが、ここで衝撃を受けました。特に中学生は鎧でも着せられているかのごとくガチガチで、私たちの問いかけに対して無表情な生徒が意外に多かったのです。子どもが抱える問題への関心が高まり、その背景にある根本の問題を絶たなければならぬと思いました。

また、活動を続ける中で、各NPOに共通する課題や弱点に気づきましたが、中でも重大なのが「組織力の弱さ」でした。NPOの活動は現場で困っている人を助けることが基本です

が、目先ばかりでは長期的経営や支援者の増加に向けての対策に目が行き届きません。そして、そもそもNPOの活動の根底にある、問題が起こる背景の根を絶つための仕組みづくり、あるいは政策に関する提言ができなくなってしまいます。当時、NPOの数は増えていたものの、それぞれ自分の団体を運営することに手一杯で、後発組が育ちにくい状況でした。その現状打破に向け、NPO各団体を支援する「奈良NPOセンター」を設立しました。それが、当時の私の役割という思いが強くなりました。

センターでは、団体運営のマネジメントや政策に関するプレゼンテーション方法、さらに諸問題への対処方法など、至る所でこれまでの経験が活かされました。各NPOをサポートするには、理論と現場の両方への意識が必要になりますが、ゼミで行った議論や、学生時代の課外活動のお陰で違和感なく、こうした意識を持つことができました。

大学では体系立った学問を学ぶのもひとつですが、重要なのは吸収した後に「それを土台にして、どう自分の中で再構築するのか」という工夫だと思います。振り返ると、それが、私が立命館で培った「学ぶ力の源泉」だったと思うことがしばしばあります。

「市民のために」 市長選出馬を決意

活動を続ける中で、NPOの組織力は目に見えて成長した。しかし、仲間うちの自己満足に終わることも多く、本当に市民が求める社会を実現するには、より実践的な社会変革が必要だという思いから、新たな一歩を踏み出し、市長選への出馬を決意する。

仲川 NPOでは企業のCSR(企業の社会的責任)の支援や、地域と企業のコミュニケーションプログラムの提案、複数の大学での講義など「まちにとって必要なことは全部やっつれ!」という気持ちで活動していました。自分たちが住むまちを良くしたいという目的は皆同じなのです。それに対して起こすアク

ションを提案することが私の役割でした。

民間企業やNPOの世界では、明確な目標に向かって突き進むことが当たり前でした。しかし、行政だけは何がしたいのかが見えず、むしろ非常に遅れている印象が強かったのです。地域の問題から目を背けているな、と。その価値観を変えなければならぬと強く思いました。

行政職員や政治家としての経験もない私でしたが、行政がフォローできない公のニーズを民の立場で担ってきた自負と、政治の仕組みをつくるバックボーンの部分として存在する「現場の声」を政策提言してきた経験がありましたので、市長の仕事はまったくの畑違いとも思いませんでした。ジャッジするのは市民の皆さま。自分は機会を与えてもらえたら最大限努力する、という気持ちだけでしたね。

私は、10年、いや100年先のまちの未来を見据え、先頭に



立って市民を導くのが市長の役割だと思います。そのためには、現在のまちの姿や課題をがっちりつつかみ、市民とともに議論し、アクションを起こしていくことが最も大切なのです。

また、真実がどこにあるのか、ということも常に問いかけていきたいと思っています。昔からそうですが、私は物事を斜めから見る傾向があります。「社会を正面で捉えず、はず向かいから見る」。すると立体的に見え、正面からは見えなかった部分に気づくのです。こうした見方は大学でさらに磨かれました。私の中では「立命館的」な視点と捉えています。

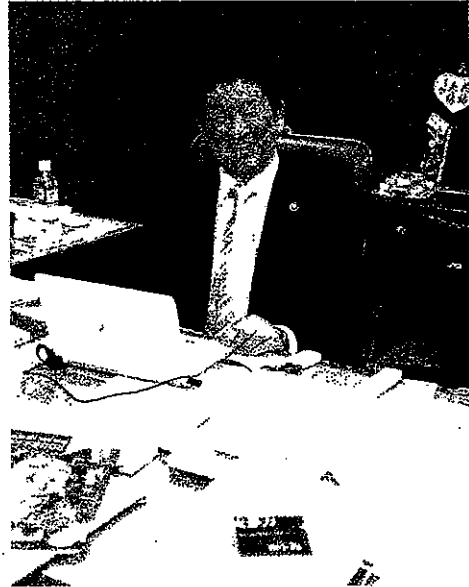
校友の集まりから見える世界の縮図

2010年に「平城遷都1300年祭」や「世界歴史都市会議」が開催される奈良市はいま、国内、あるいは世界から注目されている。そんな奈良市の顔である仲川さんが日ごろから意識していることは「走りながら考える」。現場と理論の両立を重視する仲川さんらしい。

仲川 学生の頃、ボランティアに全力を注いでいましたが、現場で活動すればするほど、学びに対する意欲が高まりました。そして、学問に打ち込み始めると、今度は「現場はどうなっているのだろう」と気になり、現場に意識が向きましたね。そういったサイクルがうまく機能するのが「立命館らしさ」ではないでしょうか。

立命館の学生は卒業してから伸びていく、というイメージが強いです。各方面で核となる人材として、活躍されているようですね。同じ大学で学んだ者として、とても嬉しいことです。卒業後のつながりとして、校友同士で様々なリンクを張りながら各自が持つビジョンをつないでいけば、さらに良い関係が構築できると思います。世界中、いろんな所にいる立命館校友が「せーの！」で集まれば、そこはどのような場になるのでしょうか。私は、そこで世界の縮図を見ることができると思うのです。一度、そういう機会があれば、おもしろいかもしれませんね。

Gen Nakagawa



- 1976年 奈良に生まれる
- 1994年 立命館大学経済学部 入学
- 1998年 同 卒業
- 帝国石油株式会社 入社
- 2002年 奈良NPOセンター入職
- 2005年 同センター事務局長就任
- 2007年 同センター常務理事就任
- 2009年 奈良市長就任
- 現在に至る

平城遷都 1300年祭

2010年開催

公式マスコットキャラクター **せんとかん**

©Heijo-kyo 1300th Anniv.



千葉、横須賀、奈良 30代市長座談会

15M

30代若手市長候補が鋭い目線で語っている。今年2月の市議会議員選挙で初の当選者として、各地の市長に就任した30代若手市長の座談会。横須賀市長吉田雄人、奈良市長仲川げん、千葉市長熊谷俊人ら、3市市長が、市長としての経験、今後の市政運営の方向性、地方自治の現状などについて、鋭い目線で語り合った。座談会には、地方自治体改革、地方財政の現状、地方自治の今後の方向性などについて、3市市長が意見を述べた。座談会には、地方自治体の現状、地方自治の今後の方向性などについて、3市市長が意見を述べた。

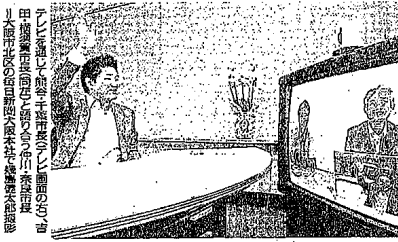
発言の重み自覚 熊谷氏

職員見る日変化 吉田氏

改革裏切れない 仲川氏

■有権者からの視線

「市長としての経験が浅い」という目線で語っている。今年2月の市議会議員選挙で初の当選者として、各地の市長に就任した30代若手市長の座談会。横須賀市長吉田雄人、奈良市長仲川げん、千葉市長熊谷俊人ら、3市市長が、市長としての経験、今後の市政運営の方向性、地方自治の現状などについて、鋭い目線で語り合った。座談会には、地方自治体の現状、地方自治の今後の方向性などについて、3市市長が意見を述べた。



吉田雄人・横須賀市長



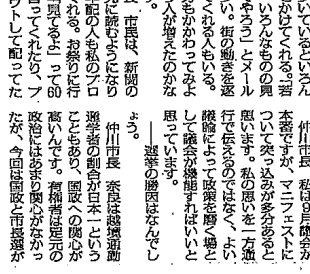
よしだ・ゆうと 1975年12月生まれ。早大政経学部卒。コンサルティング会社を経て早大大学院修了。卒業論文のテーマは「地方議会活性化のためのIT化の可能性と課題」。大学院在学中の08年、27歳で横須賀市長に初当選。2期途中の今年6月28日、地元の小泉純一郎元首相も進出した自民、公明、民主相率の選挙で連任した。選挙がない日も続けている。職歴は1200日を超え、一任期満了を目指す。

地方交付税

1850年前の地方財源確保。交付金制度が前身。財政力の弱い自治体に過剰の一部を配分し、地域間格差を是正する。国庫補助金と異なり、使途を限定されない。不足に備え、自治体の財政負担となる。都道府県平均では収入の16.4%（07年）を占める。収入増で交付金削減になるため、自治体の財政負担となる。交付金は、自治体の財政負担となる。交付金は、自治体の財政負担となる。



なかがわ・げん 本名は元朝（もととの）。1970年3月生まれ。奈良県大和郡出身。89年に立命館大経済学部卒。卒業後、石油化学メーカーに入社。01年、早大大学院進学。卒業論文のテーマは「地方議会活性化のためのIT化の可能性と課題」。卒業後、石油化学メーカーに入社。01年、早大大学院進学。卒業論文のテーマは「地方議会活性化のためのIT化の可能性と課題」。



くまがい・としひと 1978年2月生まれ。神戸市出身。早大政経学部卒。NTTコミュニケーションズに入社。会社員時代、民主主義の公明に惹かれ、07年、千葉市長選挙に立候補。初選で落選。2期目の選挙で当選。09年、14日の選挙で市議員に立候補。選挙で落選。09年、14日の選挙で市議員に立候補。選挙で落選。

自治担える職員 仲川氏

地方自治体の現状、地方自治の今後の方向性などについて、3市市長が意見を述べた。地方自治体の現状、地方自治の今後の方向性などについて、3市市長が意見を述べた。

真の豊かさ再び 仲川氏

右肩下がりに対応 熊谷氏、暮らしを良しと強調 吉田氏。地方自治体の現状、地方自治の今後の方向性などについて、3市市長が意見を述べた。

地方自治体の現状、地方自治の今後の方向性などについて、3市市長が意見を述べた。地方自治体の現状、地方自治の今後の方向性などについて、3市市長が意見を述べた。

財政自立が肝要 吉田氏

補助金の変革を 熊谷氏。地方自治体の現状、地方自治の今後の方向性などについて、3市市長が意見を述べた。

自治担える職員 仲川氏

地方自治体の現状、地方自治の今後の方向性などについて、3市市長が意見を述べた。地方自治体の現状、地方自治の今後の方向性などについて、3市市長が意見を述べた。

地方自治体の現状、地方自治の今後の方向性などについて、3市市長が意見を述べた。地方自治体の現状、地方自治の今後の方向性などについて、3市市長が意見を述べた。



熊谷俊人・千葉市長

くまがい・としひと 1978年2月生まれ。神戸市出身。早大政経学部卒。NTTコミュニケーションズに入社。会社員時代、民主主義の公明に惹かれ、07年、千葉市長選挙に立候補。初選で落選。2期目の選挙で当選。09年、14日の選挙で市議員に立候補。選挙で落選。09年、14日の選挙で市議員に立候補。選挙で落選。